

保育所等感染対策 チェックリスト

R3年12月作成 墨田区保健所

記入日	令和 年 月 日	記入者		管理者 確認印	
-----	----------	-----	--	------------	--

評価基準 A：適切に行っている。あるいは行っていると思う
 B：行っているが改善が必要、あるいは不安がある
 C：実施の必要性はあるが、行っていない
 D：当該施設では実施の必要性がない項目

○健康管理と早期発見		回答
園児	園児の毎日の健康観察を実施し、記録している。	A・B・C・D
	全園児の罹患歴及び接種した予防接種について随時確認・記録し、把握をしている。 (複数回答可)	入園時 ()回/年 その他()
	発熱等健康状態に問題がある場合、利用を控えるよう依頼している。	A・B・C・D
	園児の体調が悪い場合には、保護者にお迎えの依頼をし、受診を促している。	A・B・C・D
	体調不良の園児が感染源とならないよう、保護者のお迎えまで別室で過ごす等配慮している。	A・B・C・D
職員	職員の健康観察を実施し、体調不良時には受診と休業を促している。	A・B・C・D
	感染症の流行時期は職員の家族を含め、健康状態を把握している。	A・B・C・D
	必要に応じて、調理担当職員の検便を行っている。	A・B・C・D
	実習生の予防接種歴、毎日の健康状態を把握している。(発熱・咳・嘔吐・下痢等の有無)	A・B・C・D
	園内に入出入りするボランティア等の健康状態を把握している。	A・B・C・D
全体	園全体の体調不良者・欠席者等の情報(人数や欠席理由等)が1日1回集約されている。	A・B・C・D
	サーベイランス(学校等欠席者・感染症情報システム)を活用し、随時入力している。	A・B・C・D
	園児及び職員は、過去に発熱等健康状態(嘔吐・下痢含む)に問題が認められた場合、解熱後24時間以上経過し、健康状態が改善傾向となるまで、利用を控えている。その後も引き続き健康状態に留意している。	A・B・C・D

○感染予防対策		回答
手洗い(石けんと流水で30秒以上)、アルコール消毒等を適切に行っている。		A・B・C・D
園児に手洗いの指導を行い、保育士等が確認している。		A・B・C・D
日頃から職員・園児・保護者・来訪者への手洗いの徹底を呼びかけている。		A・B・C・D
使い捨て手袋を使用した場合、手袋をはずした後に手洗いをしている。		A・B・C・D
手拭きは、使い捨てのペーパータオルか個人用のタオルを使用している。(共用タオルは置いていない)		A・B・C・D
園児・職員に咳症状がある場合、周囲への飛散を防ぐためマスクの着用を促している。		A・B・C・D
鼻水、唾液がついたごみは、速やかに密閉して破棄している。		A・B・C・D
定期的に換気が行われている。 換気は、どの程度行っているか。		A・B・C・D ()分に1回程度
CO2モニターを設置し換気状況の確認を行っている。 ※CO2モニターを持っている場合は施設で何台所持しているかご記入ください。 CO2モニターを持っていない場合は購入検討をしているか選択してください。		行っている(CO2モニター 台) /持っていない (購入検討中・未検討)

○嘔吐・下痢の処理について		回答
職員は、ゾーニング（園内の清潔区域・汚染区域を分けること）を守っている。		A・B・C・D
職員間で、排泄時処理（下痢便時含む）の手技が統一されている。		A・B・C・D
職員間で、吐物処理の手技が統一されている。		A・B・C・D
嘔吐、下痢を処理する時には、十分に換気している。		A・B・C・D
排泄時ケアに必要な物品が備えてあり、汚染処理専用の場所で行っている。		A・B・C・D
排便交換時は、汚染区域内で、手袋・ガウン（専用エプロン）を着用している。		A・B・C・D
排便後のおむつは、ビニール袋に入れて口を閉じ、汚染区域に保管している。		A・B・C・D
嘔吐物処理に必要な物品が備えてある。（マスク・手袋・ガウン・ペーパータオル・新聞紙・ゴミ袋等）		A・B・C・D
嘔吐、下痢を処理する人は、どのような防護衣を着用しているか。 （複数回答可）		・マスク ・ガウン ・使い捨て手袋 ・エプロン（布/使い捨て） ・その他（ ）
嘔吐、下痢のあった場所は、どのような消毒薬を使用しているか。 希釈して使用する場合は、何%で何分消毒をしているか。		（ ）%（ ）分
嘔吐物が付着した可能性がある食器類は、調理室に戻す前にどのように消毒して戻しているか。次亜塩素酸ナトリウム液を使用している場合は、何%で何分消毒しているか。		（ ）% （ ）分 ／消毒していない
次亜塩素酸ナトリウム液は、希釈したものを使用毎に作成しているか。 希釈液を事前に作成して保存している場合はどのくらい保存しているか。		使用毎で作成 ／（ ）日保存
次亜塩素酸ナトリウム液（希釈液を事前作成し保存している場合の希釈液も含む）は直射日光にあたらない場所や遮光容器に入れ保管している。		A・B・C・D
汚れた衣類等は、感染性があるものとして扱っているか。 また、対処方法はどのようにしているか。		・ビニール袋に密封して保護者へ渡す ・園内で消毒 ・その他（ ）
嘔吐、下痢のあった場所（保育室・廊下・水道・トイレ等）日時の確認をしている。		A・B・C・D

○衛生管理に関すること		回答
保育室	日々の清掃で清潔に保つ。ドアノブ、手すり、照明のスイッチ（押しボタン）等は、水拭きした後、アルコール等による消毒を行っている。	A・B・C・D
	季節に合わせた適切な室温や湿度を保ち、換気を行っている。加湿器使用時には、水を毎日交換し、フィルターも清掃・乾燥させている。またエアコンも定期的に清掃している。	A・B・C・D
おもちゃ	直接口に触れる乳児の遊具については、遊具を用いた都度、湯等で洗い流し干している。	A・B・C・D
	口に入れない遊具は、午前と午後の間に遊具の交換を行っている。	A・B・C・D
	適宜、水（湯）洗いや水（湯）拭きや消毒を行う。素材にあった消毒をしている。	A・B・C・D
食事・おやつ	テーブルは、清潔な台布巾で水（湯）拭きをして、衛生的な配膳・下膳を行っている。	A・B・C・D
	スプーン、コップ等の食器共用していない。	A・B・C・D
	食後には、テーブル、椅子、床等の食べこぼしを清掃している。	A・B・C・D
調乳・冷凍母乳	調乳室は清潔に保ち、調乳時には清潔なエプロン等を着用している。	A・B・C・D
	哺乳瓶、乳首、計量スプーン等の調乳器具は、適切な消毒を行い、衛生的に保管している。	A・B・C・D
	ミルク（乳児用調整粉乳）は、使用開始日を記入し、衛生的に保管している。	A・B・C・D
	乳児用調整粉乳は、サルモネラ属菌等による食中毒対策として、70℃以上のお湯で調乳している。また、調乳後2時間以内に使用しなかったミルクは破棄している。	A・B・C・D
	冷凍母乳等を取り扱う場合には、手洗いや備品の消毒を行うなど、衛生管理を十分徹底している。母乳を介して感染する感染症もあるため、保管容器には名前を明記して、他の子どもに誤って飲ませることがないように十分注意している。	A・B・C・D
歯ブラシ	歯ブラシは個人専用とし、他の子どものもを誤って使用させたり、保管時に他の子どものもものと接触させたりしないようにしている。	A・B・C・D
	使用後は、個別に水で十分すすぎ、ブラシを上にして清潔な場所で乾燥させ個別に保管している。	A・B・C・D

寝具 (コット含む)	衛生的な寝具(コット)を使用している。	A・B・C・D
	個別の寝具には布団カバーをかけて使用している。	A・B・C・D
	布団カバーやコット用カバーを定期的に洗濯している。	A・B・C・D
	定期的に布団を乾燥させている。定期的にコットの消毒をしている。	A・B・C・D
	尿、糞便、嘔吐物等で汚れた場合には、消毒(熱消毒等)を行っている。	A・B・C・D
トイレ	日々の清掃及び消毒で清潔に保っている。(便器、汚物槽、ドア、ドアノブ、蛇口や水まわり、床、窓、棚、トイレ用サンダル等)	A・B・C・D
	高頻度接触部分である、ドアノブ・手すり・照明のスイッチ(押しボタン)等は、アルコール消毒、洗剤(界面活性剤)、次亜塩素酸ナトリウム等により1日1回以上消毒を行っている。 ※ただし、ノロウイルス感染症やロタウイルス感染症が流行している場合には、塩素系消毒薬を使用するなど、流行している感染症に応じた消毒及び清掃を行う必要があります。	A・B・C・D

〇感染症発生に備えた体制	回答
感染症対策マニュアルがある。	A・B・C・D
感染症対策マニュアルはいつ作成し、見直しは直近でいつ行ったか。	作成日: 年 月 日 見直し日: 年 月 日 /作成していない
マニュアルには、疾患別の知識、園児・職員の健康管理、標準予防策、日頃から行うべき予防策や発生時の対応策等は盛り込まれている。	A・B・C・D
感染症対策マニュアルは、いつ・どのような形で職員全体で共有しているか。	いつ() どの様に() /共有していない
日頃、感染症対策の参考にしてしているガイドラインや書籍はなにか。	
職員に対して感染症対策に関する研修・勉強会等をどの程度の頻度で開催しているか。	()カ月に1回 /実施していない
研修・勉強会等を行ったことの記録を残しているか。	最終研修等日 年 月 日 /記録していない
感染症担当者を決めているか。	職種() 名前()
感染予防や拡大防止の対策を迅速に講じるため、園児及び職員の体調や症状及びその変化等の的確な記録を作成している。	A・B・C・D
保育中に感染症の疑いのある子どもに気付いたときには、医務室等の別室に移動させて、体温測定等により子どもの症状等を的確に把握し、体調の変化等について記録をしている。	A・B・C・D
感染症等が発生した場合、いつ・どのような形で職員が共有をしているか。	いつ() どの様に() /共有していない
感染症が発生した場合には、囑託医へ相談し、必要時関係機関等に連絡する体制ができています。 (墨田区保健所保健予防課: 03-5608-6191)	A・B・C・D
感染症発生時は、どのように園児・保護者へ周知しているか。	